



GMOクラウド株式会社

お手続き関連のお問い合わせ



03-6415-7088 音声案内番号[1]
平日10時~18時(土日祝日、弊社特別休業を除く)



<https://www.gmocloud.com/form/pf/operation/>
24時間365日受付

技術的なお問い合わせ



03-6415-7088 音声案内番号[2]
平日9時~19時(土日祝日、弊社特別休業を除く)



<https://www.gmocloud.com/form/pf/tech/>
24時間365日受付

プランご案内

GMOクラウド ALTUS Isolateシリーズは仮想ルーター配下にVLAN環境を構築できる高セキュアクラウドです。

4つの機能をもつ仮想ルーター



仮想ルーターには4つの機能が搭載されており、VLAN環境を構築できます。内蔵メモリは256MB、1GB、2GBの3サイズあり、サイズによって無料となるデータ転送量が異なります。

基本的な料金システム



仮想ルーター

開始後16日(384時間)までは「従量課金」で課金され、16日間を超えると「月額定額」となります。

仮想サーバー

開始後16日(384時間)までは「従量課金」で課金され、16日間を超えると「月額定額」となります。

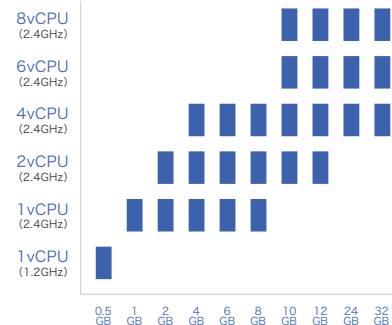
従量ボリューム

OS用のルートディスク分が「従量課金」されます。また、データディスクの増設やバックアップの取得などをすると、各リソースに対して個別に「従量課金」となります。

ネットワーク

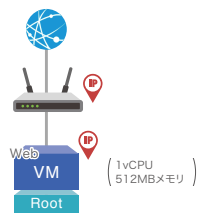
データ転送は一定量は無料、それ以上は従量課金です。グローバルIPアドレスは仮想ルーター1台作成につき、1IPが無料です。

27サイズの仮想サーバー



サイズの変更は契約手続きの変更や面倒なデータ移行をすることなくスケールアップやスケールダウンができます。システム構成の変更や拡張に応じて柔軟にご利用いただけます。

仮想ルーター1台の最小構成



・仮想ルーターを利用して専用のネットワークセグメントを設定できる。

	数量	月額
仮想ルーター (VRS)	1台	300円
仮想サーバーXSV (1vCPU、メモリ:512MB)	1台	1,000円
従量ボリューム(ルートディスク:20GB)	1個	300円
グローバルIPアドレス	1個	200円
	月額	1,800円

ご利用手順

- step1** Isolateシリーズの有効化 **1 ページ**
- step2** 仮想ルーターの作成 **2 ページ**
- step3** 仮想サーバーの作成 **4 ページ**
- step4** IPアドレスの追加 **8 ページ**
- step5** スタティックNATの設定 **9 ページ**
- step6** ファイアーウォールの作成 **10 ページ**

step1

Isolateシリーズの有効化

ALTUSポータルからIsolateシリーズを有効化して利用可能な状態にします。

1. ALTUSポータルにログイン

GMOクラウド ALTUSのポータルID、またはアカウントマネージャーのIDでログインします。
IDは下記の件名のメールをご確認ください。

件名: [GMOクラウド]お申し込みありがとうございます



2. サービスの有効化

上部メニューから[Isolateシリーズ]を選択し、[利用開始する]をクリックします。



3. 有効化の完了

コンソールログインボタンとコンソール情報が右のように表示されれば、有効化は完了です。

上記の情報はポータルを介さずに直接コンソールにログインする際に必要になります。

直接コンソールにログインする方法は下記Webページよりご確認ください。

<https://support.gmocloud.com/pf/guide/isolate/console/user.html>



仮想ルーターの作成

仮想サーバーと外部との通信は仮想ルーター(ネットワーク)経由なので、外部から仮想サーバーへ接続するためには仮想ルーターを作成して仮想サーバーへ通信を転送する設定を行う必要があります。

1. [コンソール]をクリック

上部メニューから[コンソール]ページに移動し、コンソールログインボタンをクリックするとコンソールウィンドウが開きます。



2. [仮想ルーターの追加]をクリック

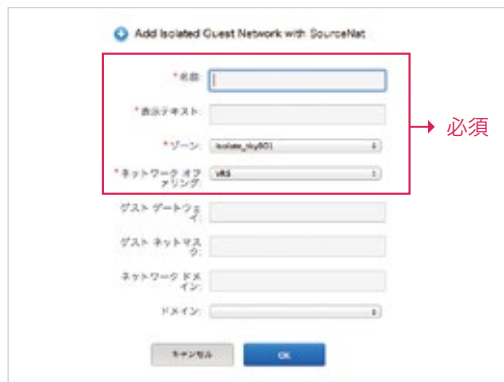
左メニュー[ネットワーク]を選択し、[仮想ルーターの追加]をクリックします。



3. 必要事項の入力

ポップアップ画面にて必要事項を入力します。

名前	ネットワークの名前を入力(半角英数字)
表示テキスト	ネットワークの説明を入力(半角英数字)
ゾーン	選択できるゾーンは1つのみです。
ネットワーク オフリング	仮想ルーターは、メモリ、無料分のデータ転送量が違う3つのサイズからお選びください。各サイズの詳細は下の表をご参照ください。
ゲストゲートウェイ	ネットワークのゲートウェイを入力
ゲストネットマスク	ネットワークのサブネットマスクを入力
ネットワークドメイン	任意のドメイン名を入力し、入力したドメイン名で仮想ルーター内のネットワークの名前解決が行えます。
ドメイン	お客さまのご利用ドメインを選択します。



仮想ルーター名	メモリ	無料分のデータ転送量
VRS	256MB	1582GB(約5Mbps)まで無料
VRM	1GB	3164GB(約10Mbps)まで無料
VRL	2GB	6328GB(約20Mbps)まで無料

※仮想ルーターの作成後にサイズ変更を行うと、自動で再起動します。
 ※料金の詳細はこちらをご覧ください。
<https://www.gmocloud.com/isolate/price/#sec01>

4. ネットワークの確認

[ネットワーク]メニュー内に追加完了したネットワークが表示されます。ここに送信元NATとなるIPアドレスを追加するため、ネットワークの名前をクリックします。

※送信元NATのIPアドレスは、仮想サーバーの通信に必須です。



5. [表示 - IPアドレス]をクリック



6. [新しいIPアドレスの取得]をクリック



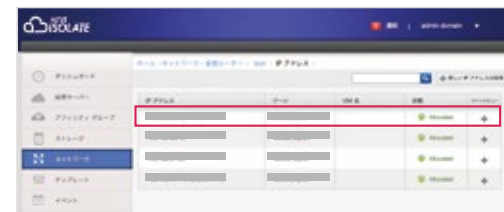
7. 確認画面で[OK]をクリック

追加した送信元NATのIPアドレスが一覧に表示されます。

ここで表示されているIPアドレスは、仮想サーバーから外部へ通信を行う際の送信元NAT用のIPアドレスとなります。

外部から仮想サーバーへの接続を可能にするには、ご利用構成に合わせて必要なネットワーク設定を行ってください。(8ページ参照)

※追加するグローバルIPアドレスは指定できません。
 ※リモートアクセスVPNが設定できるのは送信元NATのIPアドレスのみです。



仮想サーバーの作成

新規で仮想サーバーを作成するにはOSテンプレートやISOイメージ、サイズ、ネットワークなどを設定します。

本手順で新規ネットワークを作成した場合、プライベートIPアドレスは「10.1.1.0/20」が自動で割り当てられます。お客さまご指定のプライベートIPアドレスを割り当てたい場合は、本手順の前にStep2の「仮想ルーターの作成」をしてください。

1. [仮想サーバーの追加]をクリック

左メニューの[仮想サーバー]>[仮想サーバーの追加]をクリックします。



2. 仮想サーバーの各項目を設定

[仮想サーバーの追加]の設定画面が表示されます。各項目の設定をします。

セットアップ

作成する仮想サーバーのOSテンプレート、またはISOイメージを選択します。

ゾーンの選択	現在選択できるゾーンは1つのみです。
--------	--------------------

OSテンプレートまたはISOイメージの選択

OSテンプレート	弊社より提供しているOSテンプレート、またはお客さまで登録されたOSテンプレートより仮想サーバーを作成します。 ルートディスクのサイズはLinuxの場合は20GBです。Windows 2008の場合は40GB、Windows 2012、Windows2012+SQL2014の場合は100GBです。 ルートディスクはStandard Disk(標準ディスク)で作成されます。
ISOイメージ	OS 起動可能メディアを含むディスクイメージより仮想サーバーを作成します。 お客さまで登録されたISOイメージからも作成可能です。ルートディスクのサイズは作成時に指定できます。 ルートディスクのサイズは仮想サーバー作成時に1GBから1024GBの範囲で指定できます。 ルートディスクはStandard Disk(標準ディスク)で作成されます。



テンプレート

OSテンプレートまたはISOイメージを選択し、[次へ]をクリックします。

おすすめ	弊社より提供しているテンプレートです。
コミュニティ	本サービスでは提供していません。
マイテンプレート マイISO	お客さまが登録されたテンプレート/ ISOイメージをご利用いただけます。



仮想サーバーサイズ

仮想サーバーサイズを選択し、[次へ]をクリックします。
サイズによってCPUとメモリが異なります。



ディスク

ディスクの選択をし、[次へ]をクリックします。

テンプレートより作成される場合	ここでは、「設定しない」を選択します。なお、ルートディスクは選択したテンプレートに合わせて自動で作成されます。 データディスクが必要な場合は「Disk」を選択し、サイズを指定します。(1~1024GB) データディスクが必要な場合はStandard Diskを選択します。Standard Disk選択時はサイズを1~1024GBの範囲でサイズ指定します。 データディスクにFlash Diskをご利用希望の場合は、仮想サーバー作成後にデータディスクの追加を行ってください。
ISOイメージより作成される場合	Standard Diskでルートディスクを作成します。 サイズを1~1024GBの範囲でサイズ指定します。



※ いずれの場合もデータディスクは必要に応じて後ほど追加が可能です。

アフィニティグループの追加

アフィニティグループをあらかじめ作成しておいた場合は指定して[次へ]をクリックします。アフィニティグループを後から作成して、仮想サーバーに割り当てすることもできます。

- ※仮想サーバーを単体でご利用される場合には、アフィニティグループは不要です。
- ※仮想サーバー作成後にアフィニティグループを割り当てる場合、仮想サーバーを停止して割り当てを行います。
- ※[アフィニティグループの作成]の詳細は下記Webサイトをご参照ください。
https://support.gmocloud.com/pdf/guide/isolate/console/make_affinity.html

アフィニティグループ作成済みの場合



アフィニティグループを作成していない場合



ネットワーク

新規にネットワークを作成、または作成済みのネットワークを選択します。

- ※Shared Networkは選択しないでください。



確認

設定内容を確認し、仮想サーバーの名前、グループ名フォームに任意の名称を入力し(省略可能)、[VMの起動]をクリックします。

仮想サーバー名は63文字以内で指定してください。

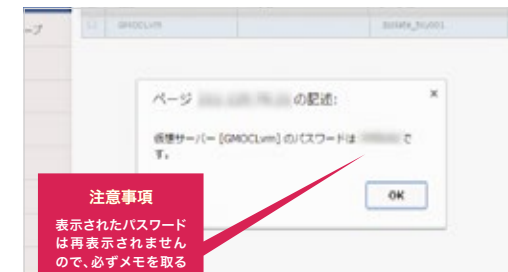
ASCII文字のa~z、A~Z、数字の0~9、およびハイフンのみ使用できます。なお、1文字目に数字は使用できません。



3. 仮想サーバーの設定

作成が完了すると、仮想サーバーのログインパスワードがダイアログ表示されます。

- ※Ubuntuテンプレートから作成したサーバーの場合は、IDは「cloud」となります。Rootでのログインはできませんのでご注意ください。



注意事項
表示されたパスワードは再表示されませんので、必ずメモを取るようになしてください。

4. 仮想サーバー情報の確認

左メニュー[仮想サーバー]>仮想サーバーの名前をクリックすると、OSやサーバーサイズなどの情報を確認できます。



- ※仮想サーバーの作成完了後、グローバルネットワークより接続を行うにはIPアドレスの追加設定が必要です。(8ページ参照)
- ※本手順内でネットワークを新規作成された場合は、サーバー作成完了までお時間を要する場合がございます。

注意事項

- ・ISOから作成した場合、Xen-Toolsをインストールしてください。
- ・Xen-Toolsは、弊社基板上でVMを最適化するためのドライバツールです。
- ・Xen-Toolsをインストールしない場合、VMのパフォーマンスが低下するほか、メンテナンス時にライブマイグレーションを実施できず、サーバーの切断が発生する可能性があります。
- ・弊社テンプレートにはあらかじめ、Xen-Toolsがインストール済みです。
- ・Xen-Toolsがインストールされている場合、xe-linux-distributionというデーモンが起動しておりますので、こちらを停止することをご遠慮ください。
- ・停止した場合、仮想基盤との連携にモジュールが正常に動作せず、パフォーマンスの低下や、ライブマイグレーションの失敗等の可能性があります。
- ・デーモンの確認は下記のコマンドで確認できます。
/etc/init.d/xe-linux-distribution status
- ・もし、停止している場合は下記コマンドchkconfigでonになっていることを確認し、仮想サーバーを再起動してください。
chkconfig --list xe-linux-distribution
xe-linux-distribution 0:off 1:off 2:on 3:on 4:on 5:on 6:off

Windows 2012 Standard Edition R2 JP x64のテンプレートより作成された場合は、初回起動時に時刻合わせを行っていただく必要があります。

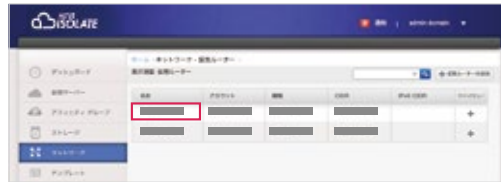
- STEP1. リモートデスクトップ画面右下の時刻部分をクリック
- STEP2. [日付と時刻の設定の変更]をクリックし、[インターネット時刻]タブをクリック
- STEP3. 「インターネット時刻サーバーと同期する」にチェックをいれ、任意のサーバーを選択のうえ[今すぐ更新]
- ※同期に失敗した場合は別の時刻サーバーで再度お試しください。

IPアドレスの追加

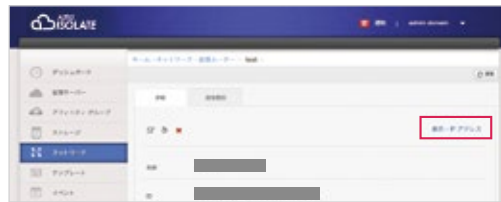
ネットワーク(仮想ルーター)に対し、グローバルIPアドレスを追加します。

1. 対象のネットワークを選択

左メニュー[ネットワーク]>該当のネットワークの名前をクリックします。



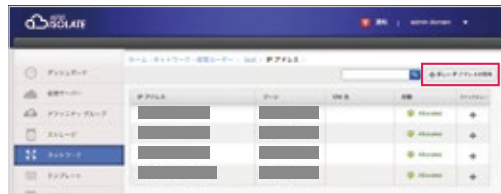
2. [表示- IPアドレス]をクリック



3. [新しいIPアドレスの取得]をクリック

ここで取得済みIPアドレス一覧に「送信元NAT」のIPアドレスが表示されていない場合は、IPアドレス取得の操作を2回続けて行ってください。

※1回目の操作で「送信元NAT」のIPアドレスが取得され、2回目の操作で仮想サーバーへ割り当ててご利用いただけるIPアドレスが取得されます。
※「送信元NAT」のIPアドレスは仮想サーバーから外部へ接続する際の送信元 NAT用のIPアドレスとなり、外部からのIPアドレスへの接続はできません。



4. 確認画面の[OK]をクリック



外部から仮想サーバーへ接続する4つの方法

- ① スタティックNAT(仮想サーバーに1対1でグローバルIPアドレスを紐付ける)
- ② ポート転送(特定ポートに対する通信を指定した仮想サーバーへ転送する)
- ③ ロードバランサー(グローバルIPアドレスに対してのアクセスを複数の仮想サーバーへ転送する)
- ④ リモートアクセスVPN(外部からVPNを通過し仮想サーバーのローカルIPアドレスへアクセスを行う)

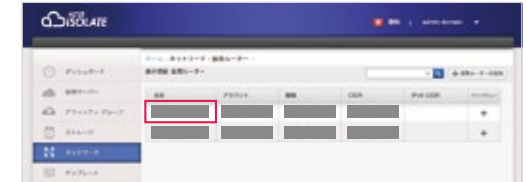
スタティックNATの設定

外部から仮想サーバーに1対1でIPアドレスの紐付けを行うスタティックNATの設定をします。

1. 追加したIPアドレスをクリック

左メニュー[ネットワーク]>該当のネットワークの名前をクリックします。

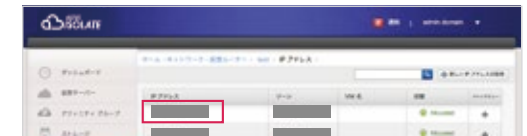
※スタティックNATの有効化は追加されたグローバルIPアドレスのみで行えます。グローバルIPアドレスの追加の手順はIPアドレスの追加をご参照ください。



[表示 - IPアドレス]をクリックします。



対象のIPアドレスをクリックします。

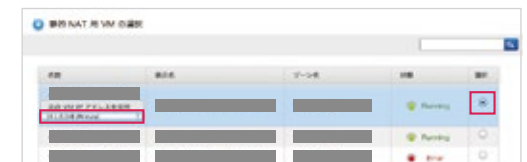


2. [スタティックNATの有効化]をクリック

※スタティックNATは[送信元NAT]では利用できません。

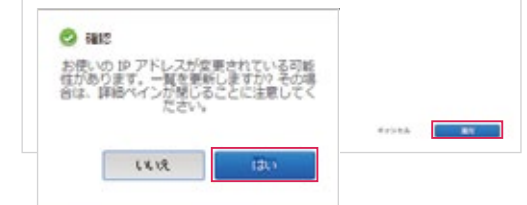


3. 対象の仮想サーバーを選択し [適用]をクリック



4. 確認画面の[はい]をクリック

完了後、グローバルIPとして外部から接続できます。ただし、初期状態の仮想サーバーは外部からの通信を全て拒否する設定になっているため、接続する際はファイアウォールの設定を行ってください。



ファイアウォールの設定

初期状態では、外部からの通信はすべて拒否する設定になっています。
運用状況に応じてファイアウォール機能より接続許可の設定を行ってください。

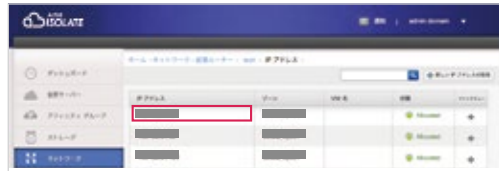
初期設定

[外部] 対象IPアドレス(インバウンド) : すべて拒否
[対象IPアドレス] 外部(アウトバウンド) : すべて許可

外部からの通信を許可する(インバウンド許可)

1. 該当のネットワークをクリック

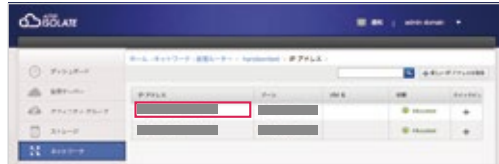
左メニュー[ネットワーク]>該当のネットワークの名前をクリックします。



2. [表示 - IPアドレス]をクリック

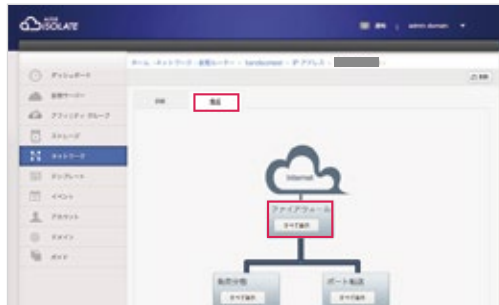


3. 対象のIPアドレスをクリック



4. [すべて表示]をクリック

[構成]タブ内、ファイアウォール項目の[すべて表示]をクリックします。



5. ルールを入力し[追加]をクリック

※ICMPの種類、コードについては通常、いずれも[-1](全て許可)と入力ください。

送信元 CIDR	接続元のIPアドレスを入力 ※CIDR(ネットマスクを含める)で記入してください。 ※全てのIPアドレスに対する設定(any)を追加する場合は[0.0.0.0/0]と入力してください。	
プロトコル	TCP、UDP、ICMPより選択	
TCP、UDPを選択した場合	開始ポート	接続を制限するポートの最小値を入力
	終了ポート	接続を制限するポートの最大値を入力
ICMPを選択した場合	ICMPの種類	ICMPのタイプ番号を入力
	ICMPコード	ICMPのコード番号を入力

記入例

IPアドレス「111.111.111.111/32」からのすべてのTCP通信を許可する場合
送信元 CIDR …111.111.111.111/32
プロトコル …TCP
開始ポート …1
終了ポート …65535

すべての接続元からの80番～88番ポートへのTCP通信を許可する場合
送信元 CIDR …0.0.0.0/0
プロトコル …TCP
開始ポート …80
終了ポート …88



仮想サーバーから外部への通信を制限する(アウトバウンド制限)

仮想サーバーから外部への通信は初期状態で制限はありませんが、お客さまの運用状況により、制限(拒否)が必要な場合は以下手順で設定が可能です。

1. 該当のネットワークをクリック

左メニュー[ネットワーク]>該当のネットワークの名前をクリックします。



2. [送信規則]タブをクリック

送信元 CIDR	送信元のプライベートIPアドレスを入力 ※仮想ルーターに設定されている範囲内のIPアドレスである必要があります。 ※CIDR(ネットマスクを含める)で記入してください。 例: 10.1.0.0/20または10.1.1.1/32	
プロトコル	TCP、UDP、ICMP、またはALLより選択	
TCP、UDPを選択した場合	開始ポート	接続を制限するポートの最小値を入力
	終了ポート	接続を制限するポートの最大値を入力
ICMPを選択した場合	ICMPの種類	ICMPのタイプ番号を入力
	ICMPコード	ICMPのコード番号を入力



3. 制限(拒否)したい通信のルールを入力し[追加]をクリック

記入例

仮想サーバーのプライベートIPアドレス「10.1.0.0/20」から22番~25番ポートでの通信を制限する場合
送信元 CIDR …10.1.1.1/20
プロトコル … TCP
開始ポート …22
終了ポート …25

仮想サーバーからのすべてのアウトバウンド通信を制限する場合
送信元 CIDR …0.0.0.0/0
プロトコル … TCP
開始ポート …1
終了ポート …65535

Tips

いくら素晴らしいWebサイトを作っても、セキュリティがおろそかになってしまえば台無しです。セキュリティを高めるためにはファイアウォールを利用して通信を許可するポートや、CIDRを適切に設定することがとても重要です。

❶ 1つのIPアドレスからのみ接続を許可する場合のCIDR記述例

CIDR: 192.168.0.1/32

○ 良い例

1つのIPアドレスを示す正しいサブネットマスク"/32"を記載すると正しく通信が制御されます。

CIDR: 192.168.0.1/0

× 悪い例

"/0"と記載した場合、残念ながら全てのネットワークから接続が許可されてしまいます。全ての接続を許可したい場合には"0.0.0.0/0"と記述してください。

❷ 狙われやすいポートには制限をかける

SSH、FTP、リモートデスクトップなど、仮想サーバーへログインするためのプロトコルは特に狙われがちです。

❶の例をもとに接続元の制限をかけ、パスワードなどのアカウント情報をランダムな英数字にすることが、お客さまのサーバーを安全に保つための第一歩です。

よくあるご質問

Q ポータルログインID・パスワードを忘れました。

A ポータルのログイン情報は、お申込み時にお送りしたメールをご確認ください。
メールを紛失された場合は下記までお問い合わせください。
<https://pf.gmocloud.com/passwordremind>

Q 仮想ルーターのサイズ変更はできますか？

A 仮想ルーターのサイズは変更可能です。
変更の際は仮想ルーターが自動で再起動します。

Q プライベートIPアドレスを変更できません。

A 仮想サーバー作成時に割り当てられるプライマリのプライベートIPアドレスは、作成後は変更できません。

Q グローバルIPアドレスは利用可能ですか？

A グローバルIPアドレスは標準で1個まで利用できます。(仮想ルーターに割り当てられる送信元NATのグローバルIPアドレスとなります)
また、[ネットワーク]メニューよりグローバルIPアドレスの追加が行えます。詳細手順については本ガイド8ページの「IPアドレスの追加」をご参照ください。

Q 仮想サーバーは何台まで作成できますか？

A 仮想サーバーの作成台数は無制限です。

Q 利用可能な支払い方法を教えてください。

A 銀行振込またはクレジットカードのいずれかがご利用可能です。

Q 仮想ルーターは何台まで作成できますか？

A 仮想ルーター数は無制限に作成可能です。
グローバルIPアドレスは1アカウント100個までです。

Q 仮想サーバーのリソース(CPU・メモリ)は変更できますか？

A コンソールより「仮想サーバーのサイズ変更」にてお客さままで変更いただけます。事前に仮想サーバーを停止してください。

Q 送信元NATと記載されているIPアドレスは何ですか？

A 「送信元NAT」のIPアドレスは仮想サーバーから外部のインターネットへ接続する際の送信元NAT用のIPアドレスです。外部からこのIPアドレスへの接続はできないため、仮想サーバーへ割り当てて外部からアクセスするためのIPアドレスとしてのご利用はできません。

新規IPアドレスを取得する際は、1回目の取得操作で「送信元NAT」のIPアドレスが取得され、2回目の操作で仮想サーバーへ割り当ててご利用いただけるIPアドレスが取得されます。

よくあるご質問のWebサイト

URL <http://help.gmocloud.com/>